

# 踊ル もりおか



kasi-friendly (株式会社 Caliente) 代表  
下山久美さんの視点を通して見る  
ファッションの今昔物語  
[前編]

「小さい頃から洋服が好きで。特に  
コーディネートを考えるのがすごく  
好きだったんです」

と下山久美さん。自分だけでなく、  
普段一緒にいる友人やテレビで見る  
アイドルまでも「コーディネートした  
い」と考えていた学生時代を過ごし、  
盛岡市内の百貨店に勤めた後、  
「LIFE」のショップ店員に。  
LIFEは当時、盛岡で唯一の古着  
屋だった。

「憧れていたご夫婦がオーナーを  
していて、空間自体もすごく好きな  
お店でした。その人達と一緒に働け  
ることも、ずっとやりたかった服に  
関わる仕事ができることも、すごく  
嬉しかったです」

その頃は、いわゆるバブル終焉の時  
代。遊ぶ場所もディスコからクラブに  
変わり、ファッションもキラキラした  
服からカジュアルに。古着を着る人  
が多くなったのもこの頃から。徐々  
に時代の流れが「古着ブーム」に移っ  
ていった。

「古着はどれも一点ものだから、そこ  
でしか出会えないおもしろさがあ  
る。そのわくわくをお客さんと共有  
しながら、私は水を得た魚のような  
感じで、もうとにかく仕事を楽しん

でましたね」

その後、LIFEは移転や店舗数  
の拡大とともに、「ファクトリー」、  
「アプラスモン」、「ハンジロー」と名称  
を変更。店舗によっては、古着だけで  
なく、オリジナルブランドやリメイク  
品も扱うようになった。久美さんも  
企画部に移ってからはリメイク品の  
担当に。仕事で海外の工場に訪れる  
ようになると、現地で働く人々の姿  
を見て「心が苦しくなった」という。

「小さい女の子が自分の手より大き  
いハサミを持って、服のリメイクをし  
ていたんです。それもすごく安い給  
料で。そんなことも知らずに、こちら  
から修正を繰り返すような指示を  
伝えていたことにショックを受けま  
した。工場に使われていない服がたく  
さん積みまれている光景を見たことも  
あって、すごく苦しくなりました」

着る人の日常を彩る服が、その制作  
過程でつくり手や環境に負荷をかけ  
てしまっている。その状況を見た久  
美さんは「これからどんなことを大  
切にして生きていくか」とその後の  
生き方・働き方について考えるよう  
に。そこで導き出した答えが  
「kasi-friendly」、「リタ」のオープン  
につながっていく……。後編へ続く

執筆— Takumi miyamoto, ガリ版— Abe Natsuki,

 **クロステラス**  
M O R I O K A

盛岡市大通3丁目4番1号 TEL.019-626-5911 (代)  
<http://crossterrace.jp/>  
営業時間/10:00~20:00 \*一部店舗を除く



## Parking Information

3F~5F立体駐車場/24時間営業・年中無休

8:00~19:00 30分100円 (時間内最大800円 ※土日祝を除く)

19:00~8:00 1時間100円

\*約250台収容・車イス専用駐車場有 \*入庫制限、車高2.1M